

うえるかむ通信・63号「コロナ禍の中で..!」号

〒273-0046 船橋市上山町 1-157-4 (カメラハウス2階) 発行責任者 赤津 保子
船橋法典駅下車徒歩8分 TEL047-710-7045 / IP 050-3496-9981 / fax047-419-2655
ブログ <http://blog.goo.ne.jp/watowawelcome/> Email : cqxt3s29n@canvas.ocn.ne.jp
ホームページ <http://welcome-funabashi.org/>



〈コロナ禍のなかで、娘は〜〉 ひなたほっこ保護者 西村 正子

娘(35歳)の通う事業所カフェも行政の指示で4/14から6/1まで1か月半の自宅待機となりました。

そこで、事業所から在宅支援という形で計画書が示され、1日のスケジュールが決まっていました。体操・軽作業(掃除・調理)などがあり、自分でこなすというものです。

なかなか指示なしで動くのは難しいのですが、娘は初めに大掃除を考え、一日一か所ずつ始めました。

まずは冷蔵庫。中身を全部取り出し、除菌スプレー・拭き掃除と手順良く進めました。日頃のカフェの指導がとても役に立ちました。

次の日は、台所の油污れ、お風呂場の床掃除、鏡の水垢とり、エアコンと次々にやってくれました。

お陰様で、一週間もたつとあちこちの大掃除ができていました。仕事で留守がちな私(母)は、小柄が高い所は苦手。大助かりです。

次は、調理も・・・。カフェの食事メニューだったり、インターネットで調べながら美味しい食事を作ってくれました。

娘はいつまでも子どもだと思っていますが、親も老いていきます。先々の心配は尽きませんが、ひとまずコロナ禍のなか、娘の日頃の成果に、感謝と成長を感じた自宅待機でした。

今は、コロナ感染の不安のない生活が過ごせるようにと思いながら、娘を毎朝送り出しています。

今はまた以前のように事業所カフェで、消毒も怠りなく、コロナウイルスに気をつけながら働いています。

(令和2年8月24日記り)



権利擁護漫画 ウエルちゃん
案・赤津 保子、画・武藤 健史
No.54「コロナ禍の中で..」



①作業所で、ウエルちゃんは掃除を頑張っています。



②でも今、作業所はコロナでお休みなので、お家の掃除をします。



③ピカピカのリビングで、体操をするウエルちゃん。

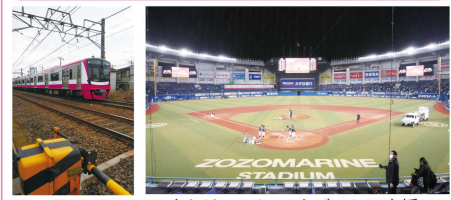


④「きれいになったわ!ありがとう!」と喜ぶお母さん。ケーキと紅茶で、お疲れ様!

育成会会員の皆様の「健康を案じています」
船橋市手をつなぐ育成会 会長 池田 健
コロナ禍により非日常の日々が続いています。船橋市手をつなぐ育成会も同様で前年までとは全く違う様相です。
5月の総会は設立以来初めての書面議決を実施し、それ以降の運営会議・理事会も書面議決を行っています。又予定されていた行事関係も殆ど中止せざる負えない状況です。来年こそは通常通りに実施したいものです。
先日、ある法人の理事会がZOOM会議で行われて私も参加しました。勿論、初めての経験です。会議そのものは、順調に進み出席者の顔も発言もPC画面を通して、ハッキリと伺えるわけですから何ら問題は有りません。しかし、違和感を持たざるを得ませんでした。何故なのか?
やはり、会議でもなんでも人々が直接会うことによる相手の表情、雰囲気などを感じることも、この場では出来ません。フクチンの開発も進み近い将来には、新型コロナウイルス感染症が終息して、皆様と会える日が早く来ることを祈念しています。

NPO法人 うえるかむの 後見支援
NPO法人 うえるかむ 権利擁護 サポートセンター 船橋 理事長 赤津 保子
ここ1年間、3名の今後の後見利用のお申し出があり、現在6名の方を後見支援しています。
♥ コロナ禍の中での窮屈さにも負けず明るく過ごしているAさん。写真の笑顔が素敵です。
♣ 最愛のお母さんと別れて暮らすBさん。でも、とても快適な暮らしを満喫。ア!自立ですね?
◆ 住いを取り、落ち着いた日々。笑顔が多くなったCさんは、静かで樹々の多い環境がお好きです。
♪ 親だけでなく、他人である「うえるかむ」のスタッフの訪問には、こりスマイルDさん。ちょっと若めの家族が増えた感じ。
✿ 親御さんが亡くなり、生活のリズムが崩れがちなEさんには、生活習慣を整え、未来が豊かになるよう寄り添っていきます。
❖ 何でもご自分で出来るけれど、控えぬFさん。福祉サービス利用を一緒に考えて、未来のサイズもクオリティ・オブ・ライフ。豊かでありませよように。
スタッフは、まめに皆さんに会いに行きます。

被後見人の兄、T.Sさんからの投稿写真です。



ロッテファンのT.Sさんは、マリンスタージアムに応援に通っています!素敵な写真をありがとうございました!

編集後記
静まる気配のない感染力。でも、みなさん我慢だけでなく本気を出して一杯生きています。今回はコロナ特集です。大変お待たせしました。
ウエルちゃんのお友達のカム君。外はコロナで外出は自粛。大好きな野球を見ながら「コロナ、そのせいで太っちゃった!」皆さん気をつけて。

◆コープみらい財団様より◆

昨年引き続きコープみらい財団様から助成を頂きました。題して『コロナに負けるな!つながりの助成』。うえるかむは小さい活動ですが、びったりなキャッチフレーズ!コロナ禍でも後見活動を停滞させるわけにはいきません。後見活動は事務執行者が被後見人を訪問したりご家族を伴って裁判所や役所・銀行にも出向くことがあるのでマスクを購入、理事・監事・事務執行者に配布しました。

平均年齢60?歳のうえるかむの理事・監事ですので、理事会を開くことに戸惑いがありましたが、助成を頂いたこともあり10月1日に10か月ぶりに開催。消毒液・除菌シートを用意し、ソーシャルディスタンスを保つため広い音楽室で3件増えた後見に関する協議を行いました。

そして「63号うえるかむ通信」は助成金により通常よりもページ数を増やしてお届けします。
うえるかむ 理事 M.T

〈ひなたぼっこの在宅支援〉

MDエコネット代表 山田 晴子



新型コロナウイルスの感染拡大で、不特定多数のお客様をお迎えするカフェひなたぼっこは、しばらく休業するしかない状況となりました。また、バスや電車での通所もできるだけ控えることにしました。

船橋市障害福祉課で在宅支援も通所として扱うという方針が出たので、在宅支援を始めることにしました。カフェの仕事の中から家でできることを抜き出して、9時半から12時くらいまでのプログラムを作りました。ラジオ体操、家の掃除、研修で使っているビジネスナー集をノートに写して復習すること、そのほか創作活動としてドラムやキーボードの練習、イラスト作成、調理など、一人ひとりに合わせたものにしました。

作業が終わったところを見計らって、毎日施設長が電話してその日の様子を聞きました。今まで掃除機をかけたことのない利用者が掃除するようになったり、家で音楽の練習を始めたたり、きれいな絵がたくさん描けたり、在宅支援で思いがけない効果もありました。家族の協力も大きかったです。電話で家族とも話すことで、よく生活のようすがわかりました。しかし一人暮らしの場合は在宅が難しく、カフェに来て作業することもありました。

今は感染防止策を取りながら、ひなたぼっこを再開しています。在宅の間に体重が増えた利用者もあり、毎日通うことの大切さを痛感する日々です。

〈一人じゃない！親の会がある！！〉

船橋市手をつなぐ育成会副会長 安藤 隆司

まだコロナ禍が見通せない中、Go To キャンペーンが実施されていますが、施設にお世話になっている親としては、いつ家族等がコロナにかかるか毎日が心配で不安な日々を過ごしています。もしコロナにかかった場合でも誰が悪いわけでもないで、皆さんで助け合っていきたいですね。

政府は経済を好転させるためにあの手この手を使って施策を出していますが、感染の第3波が起きようとしています。私たち市民は、基本に戻って三密をしっかりと守って行きましょう。

へこたれずに支え合って頑張りましょう。皆さんと一日でも早くお会いしたいものです。

〈コロナなんか怖くない？〉

NPO法人I to I 理事長 武井 剛

新型コロナウイルス感染症が原因で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、感染された方々の早期回復を願います。

「コロナ禍」という言葉が私たちの暮らしに及び込み早半年。マスク着用、手指消毒3密回避、対人距離、行動変容、自粛警察 etc. いつしか慣れてしまった「新しい生活様式」に一抹の寂しさを感じる、されど我がらが日々。

でも、大切なことはいつだって障がいのあるみんなが教えてくれる。10月の一泊旅行。Go To 館山。23名で別荘を借りてお庭でBBQ…のはずが、残念！外は大雨。急遽リビングでの立食形式の食事に変更。あれ？ソーシャル…なんだった？所狭しとテーブルに並ぶお皿を囲む人の波。「コラ～自分の箸でお肉をとっちゃダメ！」嗚呼、これで集団感染が起きたら私はジ・エンド…なんてヒヤヒヤしつつもみんなで食べる食事は最高の美味。

日々の小さな幸せ。それでOK(…なのかな?)。



コロナに負けるな！寄稿文紹介！

《チーム「はやぶさ」走ってます》

うるかむ理事 大山 正美 (元教員)

学校卒業後も走りたいという親子の希望からスタートしたチーム「はやぶさ」。18歳から47歳までの幅広いメンバーで活動し、各地のマラソン大会や駅伝に参加してきました。

ところがコロナ禍で、職場の不規則な勤務や通所施設のお休みがあり、「はやぶさ」も4月、5月の練習や合宿も中止となり、メンバーの生活にも大きな変化がありました。

それでもそれぞれの自分のペースで練習を続けました。6月からは練習が再開されましたが、マラソン大会、駅伝はすべて中止。

そんな中、秋になってお母さん方から、「チーム内駅伝」の提案があり、11月8日、2チーム対抗のレースが行われました。「はやぶさ」のユニホームを着て走る姿は皆、のびのび、活き活き！

笑顔でタスキが繋がりました。



「糾弾や罵倒ではなく寛容からの笑顔」 さざんか会理事長 宮代 隆治

昨年末、中国武漢市より病原体不明の肺炎発症の報が届きました。やがてそれが「新型コロナウイルス」によるものと判明、わが国でも年明けに患者発生が大きなニュースになりました。以後世界中に蔓延し10月8日統計で累計感染者が約3,615万人、死者は約1,055千人を数えます。この数は、日々確実に増加しています。未知のウイルスによるものとは言え、ここまでの感染拡大は多くの人にとって、予想を上回るものではなかったでしょうか。

これだけ激しく世界を揺さぶる疾病です。当然私たちの生活にも多大な影響を及ぼします。人が集うことイコール感染の恐れということで、オリンピックも延期されました。突然学校が休止、子供たちの学びにも影響が出ました。特に飲食を伴う店舗が休業を余儀なくされました。職を失われた方も大勢です。

予防策としてマスクの着用が半義務化の態、輸入に頼っていたせいもあり瞬間に店舗から消えてしまいました。ネットでは、信じられない高額での販売が罷り通っていました。この他、消毒液や防護服なども不足状態が続きました。

このような世相を受け、日頃聞きなれない、あまり使わない言葉が登場。日く「三密」、「ソーシャルディスタンス」、「自粛」等々。「自粛警察」もありました。正体不明、原因不明、解決未定、将来不安、

これらに直面した時私たちは疑心暗鬼、先行き不安、風前の灯の心情に囚われがちです。何が何でもマスク着用を強要したり、深夜営業店舗に叱責罵倒の張り紙をしたり、とにかくこの非常時に自重、自粛が足りない、不屈き者め、の剣幕です。ただ、この風潮が過度、激化すると他に対する攻撃、排斥、誹謗が極端になり、寛容さや優しさや思いやりが影を潜めてしまいます。それでなくとも皆窮屈さや不便さ、以前と異なる状況にどう適応するか、困惑しているのです。

私たちは全員被害者です。嫌悪すべきは「新型コロナウイルス」であり、互いを攻め合うのはお門違いなのではないでしょうか。

先日、新聞の投稿欄に14歳の女子中学生の思いが綴られていました。萎縮や我慢の日常を皆が耐えている世相に向かい、「闘う相手は新型コロナウイルスです。それが人間になってしまっは…。人の笑顔が少なくなったように感じます。笑顔は、コロナですさんだ心を包み込む不思議な力があるはず。優しい心を封じ込めず、思いやりを増大させていませんか?と。

若い瑞々しい感性から発せられたものです。拝読の高齢者は、深く頷いていました。



「悪女も好きです。いと者えていませ。いつも頭の中を、中島みゆきの「地上の星」のメロディが流れています。個人的には

功を奏しています。三つの密を保持し、利用者の日常生活を支援し、ストレスフリーの日々が送られるよう生活環境の調整に汗を流しています。等々のアドバイスをお願いしたいことが、いま、

1 利用者・職員の体調管理
2 手指消毒の徹底
3 施設内の消毒
4 職員間の接触を減らす
5 職員と利用者(家族)の接触を減らす
6 利用者同士の接触を減らす

「コロナ禍で障害者支援施設は「さざんか会」のまる施設長 泉 一成